



UNESCO HAMAMATSU

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

No.170
2018.3.10

発行：浜松ユネスコ協会
 発行人：会長 小島暉壯
 TEL(053)463-0458
 FAX(053)463-0458
 編集(広報委員会)阿部行俊

浜松ユネスコ山本自然科学賞

1月27日(土) 於：ホテルコンコルド浜松

第19回浜松ユネスコ山本自然科学賞の授賞式が行われました。この賞は会員である、山本正俊さん(故)、和子さん御夫妻から、浜松市内の児童生徒の自然科学に対する研究心の向上を図るために個人浄財を当協会に寄付されたことを受け、これを基金として1999年5月に設立したものです。本年度は、小学生の部で正賞1研究、奨励賞2研究が選ばれました。



受賞者の皆さん 前列左から 大山さん、宮下さん、山本顧問、稲垣さん

正賞 浜松市立内野小学校6年 宮下和真さん
浜松市熱帯化の危機 ～赤カブトムシ大発生～

赤カブトムシに焦点を当てて4年目の研究です。カブトムシの体色「赤色・黒色」は遺伝ではありません。体色が異なる要因を追究するため、条件を整えて実験飼育を進めました。そして、幼虫期の4、5月の気温との関連に結び付け、浜松の熱帯化についても考えています。



奨励賞 浜松市立双葉小学校6年 大山泰知さん
エネルギーについて考える4 ～温度差でつくる電気～
浜松市立蒲小学校6年 稲垣結衣さん
セミのぬけがら調べ

山本自然科学賞 表彰式

【会長挨拶】

～ 世界の平和に貢献する人に育ってほしい ～

浜松ユネスコ協会会長 小島逞壯 氏

山本自然科学賞を受賞される皆さん。おめでとうございます。この山本賞は、医師であり、ユネスコの平和運動を推進された山本和子先生御夫妻の基金によって作られました。平和への運動に参加した方々は、世界に溢れるほどありますが、こうして自分の資産を投げ打って、青少年のための、自然科学の研究に基金を作られた人は、他に聞いたことは有りません。

科学によって世界の平和に貢献する人に育ってほしい。山本先生御夫妻の精神は崇高なものであります。きっと皆さんの心に、勇気と希望の光を与えて下さると思います。私たちは皆さんに、大きな期待を寄せています。(要旨抜粋)



【来賓祝辞】

～ 自分の生き方の中心に「やらまいか精神」を ～

浜松市教育長 花井和徳 氏

正賞、奨励賞を受賞された方に共通しているのは、このように長い年月をかけて研究を続けてきたことでもあります。これは日本の教育が目指す主体的で深い学びを形に表しているものです。一つの研究テーマを追究する姿勢に敬意を表したいと思います。本日の受賞を機に、これまで研究してきたテーマを更に極めたり、新たな課題に挑戦したりして自然科学への興味関心を一層高めていってほしいと願っています。

私たち浜松の先輩たちは昔から失敗を恐れずにやってみようという「やらまいか」精神をもっていろいろなことに挑戦をしてきました。若い皆さんがこうしたDNAを受け継いでいただいていることをとても頼もしく感じます。これからも浜松の「やらまいか精神」を自分の生き方の中心に据えて成長してほしいと願っています。(要旨抜粋)



【励ましの言葉】

浜松ユネスコ協会顧問 山本和子 氏

日本のユネスコ組織の中で浜松ユネスコ山本自然科学賞のような活動を行っているクラブはありません。このような活動を行うためには、大勢の小学生の報告書を読み、その中から受賞者を選んでいただくという作業は大変頭と労力を要することだと存じます。今、浜松ユネスコ協会の会員の中には幸いなことに優秀な学校の先生方が大勢いらして、この選考をやってくださるわけです。それが大きな力になって、このような活動を継続して行うことができるのだと思います。

この場をお借りいたしまして受賞者の皆様方にお祝いを申し上げますとともに、この選考をしてくださいました先生に心からお礼を申し上げます。本日は誠にありがとうございました。ありがとうございました。



貴重な自然を
次の世代に残しましょう。

山本和子



印刷のエキスパート

株式会社開明堂

TEL <053> 471-6231 (代) FAX 473-0778

2018年 新春の集い

浜松ユネスコ協会新春の集いが、1月27日（土）にホテルコンコルド浜松で開かれました。

【会長挨拶】 平和は日本人の使命 小島逞壯 氏

昨今、毎日毎日ミサイルや核兵器の言葉が飛び交い、あたかも戦争が起きるかもしれないという事態になっています。とんでもない時代の逆行です。70年程前、世界が破壊された第二次世界大戦の反省から生まれたのが、国際連合のユネスコでした。教育、科学、文化を通して、人々の偏見と差別をなくし二度と戦争をしないと誓ったはずでした。日本も310万人に上る尊い命を失い、世界で初めて広島と長崎に原子爆弾が落とされました。これまで私たちはこの愚かな世界大戦の教訓を生かしてきたのでしょうか。今こそ、日本はもっともっと平和の声を上げることが、私たち日本人の使命であると考えています。（要旨抜粋）



【来賓挨拶】

衆議院議員 塩谷立 氏(代理 青島大 氏)

塩谷よりメッセージを預かって参りましたので、代読をさせていただきます。

極寒のみぎり、吹きすさぶ遠州冬の名物からっ風が一層身に応えます。浜松ユネスコ協会会員各位は希望に満ちた新年を迎えられましたことを心よりお慶びを申し上げます。浜松ユネスコ協会2018年新春の集いの開催を重ねてお慶び申し上げます。海や山々に恵まれた郷土浜松の自然を生かしたユネスコ活動に日々ご活躍の協会の皆様に敬意を表します。さらに、親子公園探検隊や木の実や命のつながりなどなど、サイエンスの視点での自然、文化、歴史の取組の充実とうれしく思います。結びに、輝かしい伝統と数々の実績を積み重ねられている浜松ユネスコ協会の益々の発展を、そして、2018年新年の集いの御盛會を祈念申し上げ、お祝いのメッセージといたします。

新春の集いに引き続き懇親会が開かれました。今後のユネスコ活動についても話題にしながら、会員同士の親睦を深めることができました。



常任理事 桑原昌子 氏



先程の子供たち（山本自然科学賞受賞者）の素晴らしい発表を聞き、心があらわれる思いでした。私たちがいつになってもあの子供たちを見習って学んでいく気持ちを失わないでいきたいと思います。このユネスコの集いでは、ゆっくりと親交をいただいて、皆様と歓談致したいと思います。

顧問 岡本肇 氏



今日の3人の発表（山本自然科学賞）を聞いて素晴らしいと思いました。自分は、小学校の頃、何をやってたのだろうと思いました。子供たちが、これからも研究を続けて行くと思うと大変期待が持てる気がしました。私は、だいぶ、がくがくになってきましたけれど、浜松ユネスコは小島会長、安藤副会長を中心に益々アクティブに活動を進め、本当にうれしく思います。（要旨抜粋）

私のまちのたからもの展

郷土に愛を 自分に誇りを

未来遺産委員会

100年後の子供たちに、長い歴史と伝統をもとに培われてきた地域の文化や自然を伝えるための運動として取り組んでいます。第8回となる本年度は、浜松・湖西市内から776点の作品の応募がありました。そして、特別賞25点、佳作39点、学校賞2校、入選132点が選考され、1月10日（水）から12日間、遠鉄百貨店ギャラリー・ロゼで展示会が開催されました。また、14日（日）には、えんてつホールにて表彰式が行われました。



浜松市長賞 「小さな秘境」

浜松市立都田中学校3年
山田夏海さん

私は中学校の最後の夏休みにこのコンクールに初めて応募しました。多くあるコンクールの中で、創作してみたいと一番強く感じたからです。また、素晴らしい絵に出会うチャンスだと思いました。

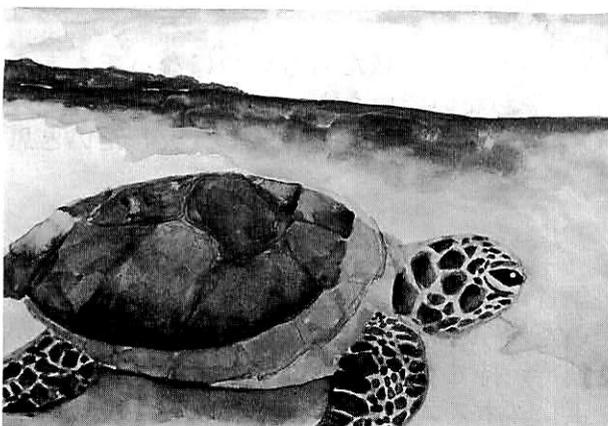
この作品は、私が住んでいる都田が舞台です。この町は自然が豊富で、野生の動物、豊かな緑、都田川のせせらぎがあります。一人で考えたいことがあると、下校のとき人があまり通らない道に向かいます。私は、この道が線路の上を横断するところがとても好きです。夏になると生い茂った緑のトンネルをお客を乗せた列車が一直線に走って行くのです。

この栄誉ある賞をいただいたのは、都田という環境と今まで出会った美しいもののおかげと感じています。今後もこの日を忘れず、誇りに思っ、自身の創作活動に専念していこうと思います。（表彰式「喜びの言葉」から要旨抜粋）



浜松市長賞 「新しい命のために」

浜松市立白脇小学校4年 澤柳帆花さん



ギャラリーロゼでの展示

全入選作品は浜松ユネスコ協会HPにて公開しています。是非、子供たちの郷土への思いを御覧ください。

<http://www.unesco.or.jp/hamamatsu/>

[takara/takara.html](http://www.unesco.or.jp/hamamatsu/takara/takara.html)

私のまちのたからもの展 表彰式

【会長挨拶】 ～ 地域に学び 未来に生かす ～

浜松ユネスコ協会会長 小島逞壯 氏

皆さんの作品一つ一つに私は感銘を受けました。たくさんの方の立派な作品をありがとうございます。心に宝物を持った皆さんを私は誇りに思います。

私たちの町には素晴らしい自然や文化や歴史があることを知ったことでしょう。これこそ、私たちの祖先が長い苦難の末、残してくれた遺産なのです。天竜川の土手の造りにも、お祭りの屋台にも、また、戦争中亡くなった方々の、小さな石碑の一つにも、過去に生きた人々のたゆみない努力と歴史の教訓が刻まれています。この未来遺産を、これから生まれてくる未来の人たちに繋げていくのは、みなさんなのです。郷土に愛を、自分に誇りを持って。平和で希望の溢れる町や日本を作ってください。（要旨抜粋）



【来賓挨拶】 ～ 都田・中田島は 私にとっても思い出の場 ～

浜松市長:代理 副市長 鈴木伸幸 氏

市長賞作品の題材は、中田島砂丘と都田駅で、私自身が子供のころから慣れ親しんだ場所でした。中田島砂丘には春の遠足や父親と一緒にした海釣りの記憶があります。都田駅には奥山線軽便鉄道で金指や終点の奥山半僧坊まで出掛けた思い出があります。私にとっても慣れ親しんだ懐かしい場所です。そうした場所を、若い皆さんが「私のたからもの」として選び、この先100年後を見据えて守り伝えていきたいという思いで応募してくださったことにうれしく、頼もしく思います。

浜松市には発掘されていない歴史や文化が、まだまだあるかと思っています。みなさんと協力しながら、語り継いでいくべき浜松の歴史文化自然をしっかりと継承していきたいと思っています。（要旨抜粋）



～ 浜松大好き いきいき輝く 大人へ ～

浜松市教育長 花井和徳 氏

浜松にはたくさんの方のたからものがあります。まだまだ、浜松には、知られていないたからものもあると思います。この受賞をきっかけに、たからものを大切にするとともに、新たなたからものを探してもらいたいです。

この「たからもの展」は今年で8回目です。当時の小学校6年生は、今年成人式を迎えました。その6年生がたからものとして描いたものは、今、色褪せずに残っているのだろうか？ 私たちは、それを大事にしてくださいだろうか？ そのようなことを考えながら、今日、皆さんの絵や文章を読ませていただきました。ここにいるみなさんも、自分のたからものを大切にしながら成人式、そして三十歳、六十歳。父親母親なってもこの浜松が大好きで、いきいきと輝ける大人になってほしいと思います。（要旨抜粋）



県教育長賞

県教育委員会教育次長 鈴木一吉 氏 奥村耕一さん



市長賞

澤柳帆花さん

山田夏海さん

出前授業委員会 第8回はままつグローバルフェアに参加 一服のお茶でつながる世界

2月11日（日） 於：クリエート浜松

浜松市は約23000人の外国人が暮らす町。「はままつグローバルフェア」はこの町にとって国際交流の一大イベントです。浜松ユネスコ協会として初めて参加し、日本文化であるお茶会を行いました。

宗徧流教授である水谷ひで氏の指導の下、お茶席を設け、お客様をお迎えしました。初めてお茶を体験される多くの外国人や日本の方も、お菓子（紅梅…御製菓「花鼓」）とお茶（萩の白）に舌鼓を打ちながら、お軸やお花についての話も興味深く聞き入っていました。



中央：コルネスト 氏

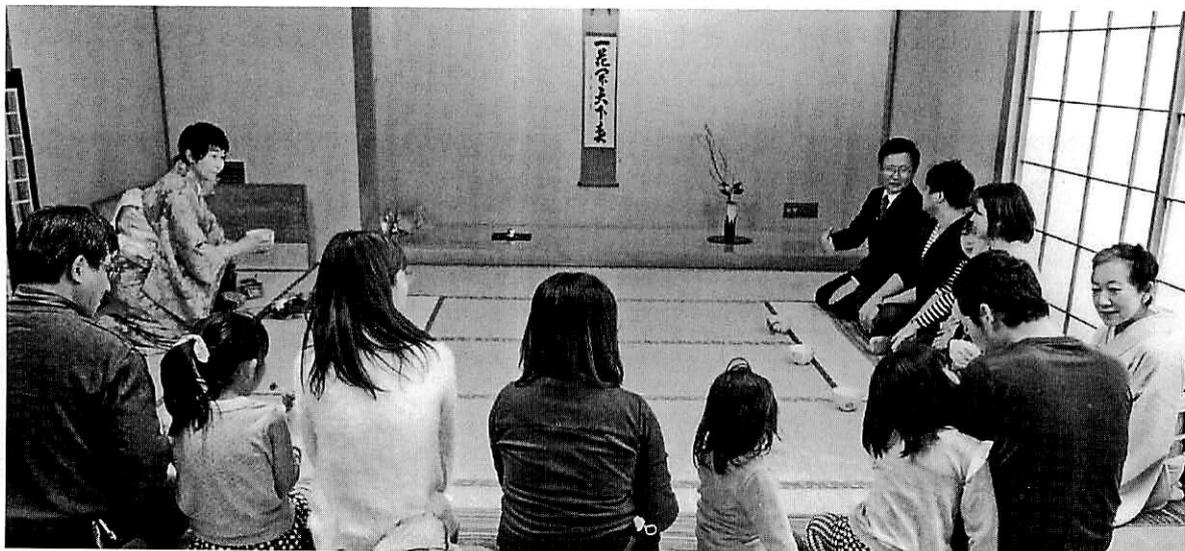
途中、ブラジル総領事館総領事のフーバルチ・コルネスト氏一行が視察に来られました。水谷氏の流暢な英語での案内で総領事一行は、お席入りされ、日本の文化を話題にしながら一服のお茶を楽しまれました。



左：水谷ひで 氏

お茶の作法が心配な外国人や日本の方々も、水谷氏の丁寧な対応に安心して日本文化のお茶を楽しむことができました。お茶の苦さ・甘さ・奥深さを舌で感じ取っていただき「おいしかった」と言ってくださいました。また、お軸の「一花開天下春」は、「一花開き次第に春が訪れ、春爛漫となる。自分自身の心の安寧を願いつつ世界が平和に繋がってほしいという願いを込めている」という説明を聞き、ユネスコの精神も込められていると思いました。

初めての国際交流の活動でしたが、ブラジル、フランス、インド、インドネシア等の国の人たちもお迎えすることができ、お茶を通して日本文化の美しさや奥深さを感じ取っていただけたと思いました。皆様にお礼を申し上げます。（大石幹子）



第3回親子公園探検隊 晩秋の自然 in 浜松城公園

平和を希求する心を培う

11月3日（金）於：浜松城公園

透き通る青空の中、総勢78名（27家族）の親子が晩秋の浜松城公園を探検しました。今回は、自然観察のほか、太平洋戦争の慰霊碑前で浜松大空襲についての話も聞きました。



4つのグループに分かれて、アラカシ、シラカシ、マテバシイ、イチイガシ、ウラジロガシ、ツクバネガシ等のドングリや、ニシキギ、イチヨウ、イロハカエデ、カイ等の紅葉した落ち葉を拾い集めました。集めたものを見せ合ったり比べたりしました。イヌシデ、クマシデ、アカシデ等の飛ぶ種の観察もしました。講師の説明に保護者の方も熱心にメモを取っていました。

太平洋戦争の慰霊碑の前では、ユネスコ会員の服部文枝氏から戦争体験の話を伺いました。戦争当時の衣食住や、爆弾が落ちてくる中、たくさんの遺体を見ながら逃げのびた話は、子供たちの心に深く残ったようでした。

「こうしてのんびりと紅葉を見られるのも平和な世の中になったおかげですね。」という参加者の言葉が印象的でした。

活動の最後に、飛ぶ種のモデルを飛ばして楽しみました。雲一つない青空の下、喜ぶ子どもたちの歓声が響き渡っていました。こうした活動を通して、平和を希求する子どもたちが育っていくことを願っています。（袴田正義）



にれとうほう
榎陶房
 浜松市南区瓜内町860-1
 TEL 080-3069-0240

内科・消化器科
西脇医院 院長 西脇雅子
 中区和合町176-58 ☎ <053> 412-5355

第7回科学教室 「神秘的な星の世界をのぞこう」

～ 星の輝きに 科学の心も輝くかわな星空 ～

12月10日(土) 11日(日) 於：浜松市かわな野外活動センター

何回空を見上げても曇り空。天気予報では21時頃に雲は抜けるらしいが、天体観測はどうなるのだろうか。不安を抱えた開講式でした。子供たちに、少しでも星空を見つめてもらいたいとプログラムを変更し、天候の回復を待ちました。

その願いが届き、21時過ぎ、ついに雲の切れ間に星が見え始めました。カシオペア座、オリオン座、かわなの夜空に輝く星たちは本当に美しかったです。「すばるには6つの星が見える。」「どれがアルデバラン？ カペラはどこ？」子供たちは、夢中で星を探しました。雲の合間から見えた星の輝きに何倍もの感動を味わうことができました。待ち続けた子供たちへのご褒美か、流れ星も見られました。



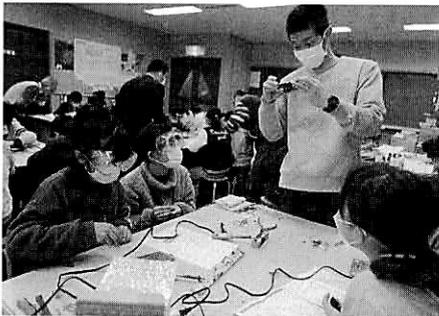
翌日は、冬のかわなの自然を観察しました。葉が落ちた冬だからこそ見付かるものがあります。クヌギの落ち葉の中に緑色のウスタビガの繭を見付けました。キハダの葉柄がとれた痕はピエロに、クルミはヒツジに見えます。冬ならではの自然をたくさん見付けることができました。

かわなの自然を心と体で感じ、感動をたくさん味わうことができました。教室生73名、家族11名でした。(喜澤俊輔)

第8回科学教室 「ラジオを作ろう」

～ 真剣なまなざし そしてラジオからの音声に笑顔があふれる ～

1月27日(土) 於：浜松科学館



昨年まで使用していたAM、FMラジオキットが販売終了になっていました。それだけ子供たちが電子工作をする機会がなく、需要がないのだと感じました。

今年はAMとFMが一体化した新しいキットを使いました。試作した際、部品数が少し多くなっていて、今までよりも基盤が小さい分、半田付けをする間隔が狭くなり、難しくなっているように感じました。そこで、今まで一人一人が製作するのをスタッフが補助していた方法を、今年は教室全体で一斉に進めることにし、

さらに、始めに練習用基板を使って半田付けの練習をするようにしてみました。

その結果、例年よりも成功率が高くなり、始めてから2時間後には、教室のあちらこちらからラジオの大きな音が聞こえてきました。今回も、半田付けをする真剣なまなざし、音が聞こえてきたときのうれしそうな笑顔が、とても印象的でした。一つのことをやり遂げることの大切さも学べたのではないかと思います。(石塚雅人)



あなたも一緒に

会員募集

問い合わせ・申し込み
事務局 三輪 宜弘
■ 053-425-8643

会員動向 会員数 (18.2.6現在)

賛助	法人	維持	理事
29	1	6	43
普通	学生	合計	
42	0	121	



※再生紙を使用しています。